

平成 25 年度大気の測定結果

1 大気汚染常時監視

(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄に係る常時監視測定局数は、一般局が 19 局、自排局が 3 局でした。
常時監視測定における長期的評価を行った測定局（18 局）の年平均値は、一般局（15 局）が 0.003ppm、自排局（3 局）が 0.002ppm であり、図 1 のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

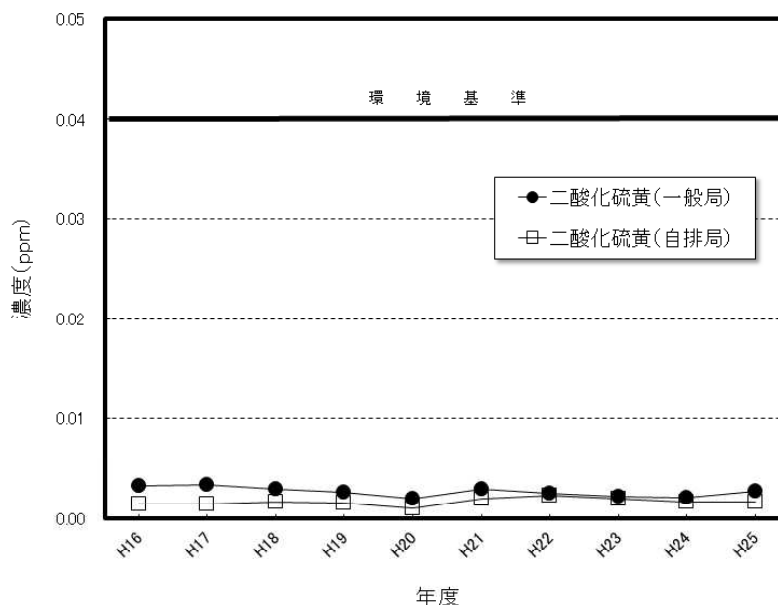


図 1 二酸化硫黄濃度の年平均値の経年変化

(2) 二酸化窒素

二酸化窒素に係る常時監視測定局数は、一般局が 17 局、自排局が 5 局でした。
常時監視測定における長期的評価を行った測定局（16 局）の年平均値は、一般局（11 局）が 0.005ppm、自排局（5 局）が 0.009ppm であり、図 2 のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

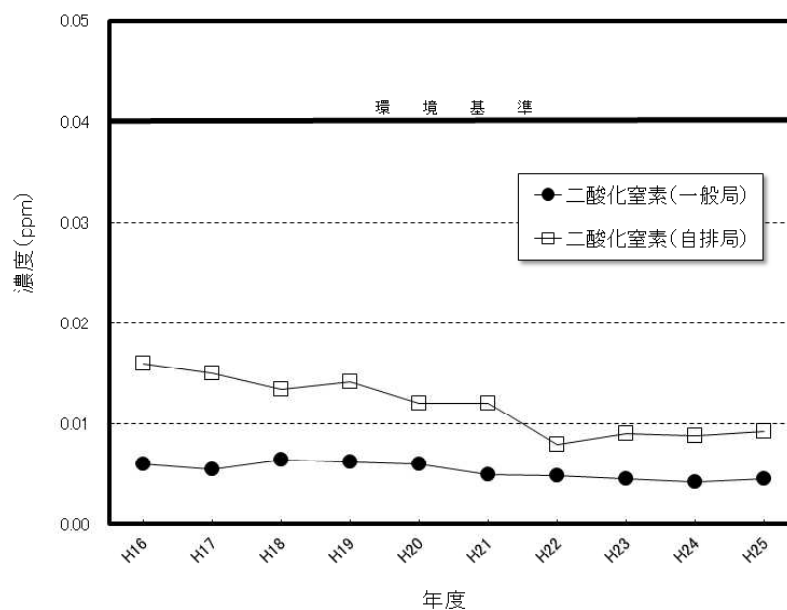


図 2 二酸化窒素濃度の年平均値の経年変化

(3) 光化学オキシダント

光化学オキシダントに係る常時監視測定局数は、一般局が12局、自排局が1局でした。光化学オキシダント濃度は近年全国的に上昇傾向にあり、平成18年度以降、毎年九州でもいずれかの県で注意報(発令基準: 0.12ppm)が発令されています。

本県では、これまで注意報が発令されたことはありませんが、今後とも、オキシダント濃度の推移等について注視していく必要があります。

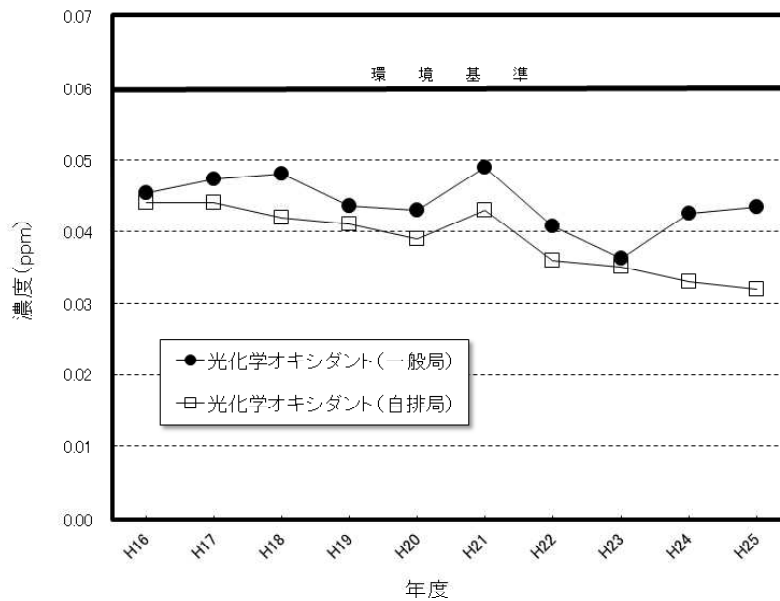


図3 光化学オキシダント濃度の昼間の日最高1時間値の年平均値の経年変化

(4) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質に係る常時監視測定局数は、一般局が14局、自排局が5局でした。常時監視測定における長期的評価を行った測定局(16局)の年平均値は、一般局(11局)が0.023mg/m³、自排局(5局)が0.029mg/m³であり、図4のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

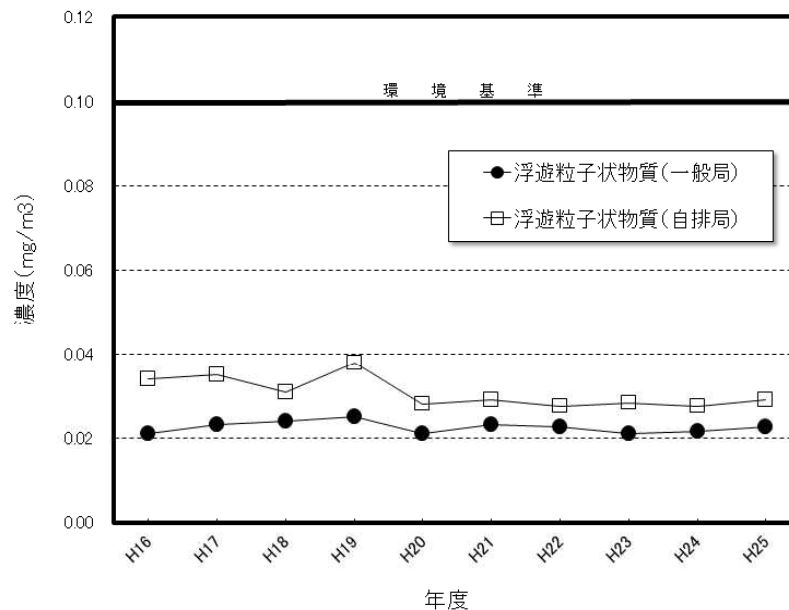


図4 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の経年変化

(5) 一酸化炭素

一酸化炭素に係る常時監視測定局数は、自排局が5局でした。

常時監視測定における長期的評価を行った測定局（5局）の年平均値は0.4ppmであり、図5のとおり近年はほぼ横ばい傾向にあります。

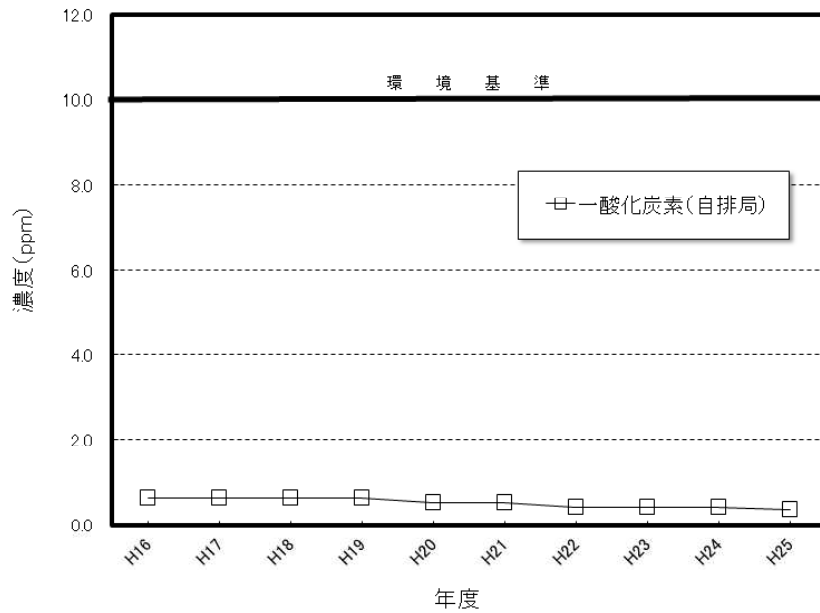


図5 一酸化炭素濃度の年平均値の経年変化

(6) 微小粒子状物質 (PM2.5)

微小粒子状物質 (PM2.5) に係る常時監視測定局数は一般局が7局、自排局が2局であり、常時監視測定における長期的評価を行った測定局（4局）の年平均値は、一般局（3局）が16.8 μ g/m³、自排局（1局）が14.6 μ g/m³であり、図6のとおり一般局の値はほぼ横ばい傾向にあります。

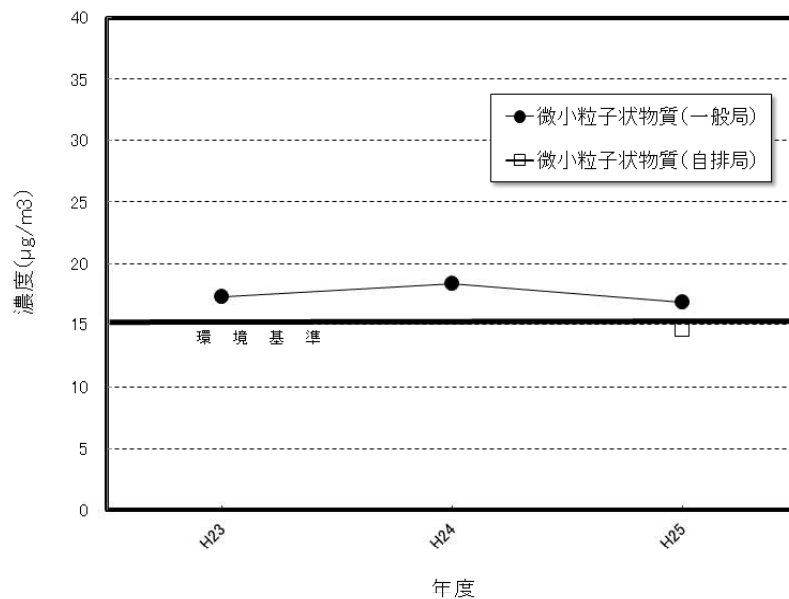


図6 微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度の年平均値の経年変化

2 有害大気汚染物質モニタリング調査

有害大気に係る調査地点数は、ベンゼンが4地点(宮崎市立図書館、高鍋町健康づくりセンター、北部港湾事務所、都城自動車排出ガス測定局)、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンが3地点(宮崎市立図書館、高鍋町健康づくりセンター、北部港湾事務所)でした。

それぞれの年平均値は、 $0.84 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、 $0.049 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、 $0.015 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 及び $1.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、図6のとおり近年ほぼ横ばい傾向にあります。

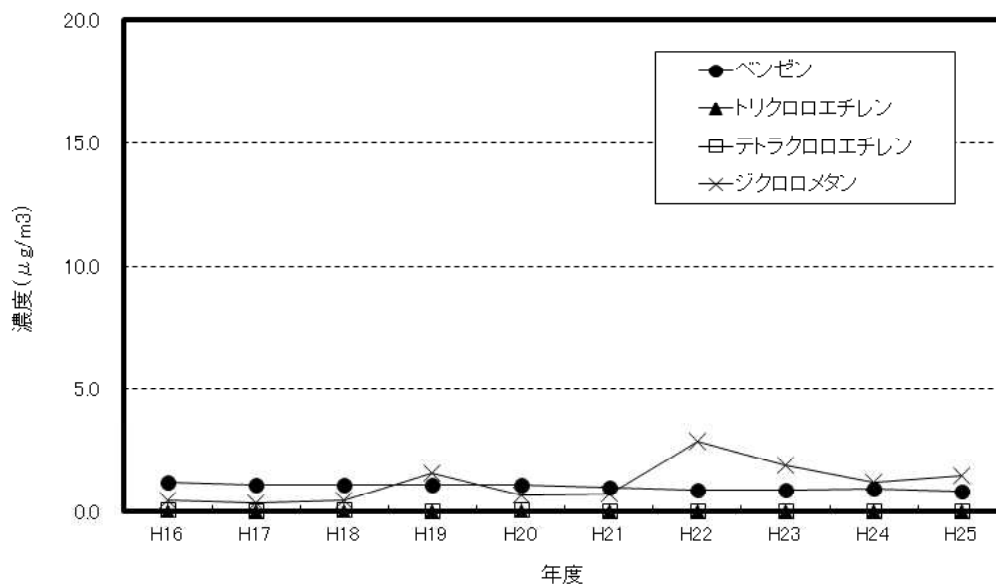


図6 ベンゼン等濃度の年平均値の経年変化